



## 光輝く島国 スリランカ

守屋留学生交流協会 第二十六回奨学生

### B.M.P. ラタナーヤカ

#### ■スリランカの風土

人口約二千万人、北海道よりやや小さいスリランカは、インド南端からやや東南に位置する。国の周りに金色の砂浜が広がる海辺はとてもきれいで、一年中海水浴を楽しめる。海に近いところは一年中暖かいので、半袖で過ごせる。また海から三〜四時間かけて国の南部中央の高地に行くとき涼しく、さわやかだ。まるで日本の軽井沢のようなところもある。このように小さな国土の中でいろいろな気候を体験できることがスリランカの特徴である。

私はいろいろな国に行ったけれども、やはりスリランカは非常にきれいで、自然に恵まれている素晴らしい島国だと自信を持って言える。だからこそ四五〇年近くの間、ポルトガル、オランダ、イギリスの植民地になっていたのだとも思う。

#### ■食文化

島国で自然豊かなスリランカでは、お米、野菜、魚、肉などを食材として利用している。三食とも、ご飯と、野菜・魚・肉等のカレーを食べるのがごく一般的である。カレーは日本のカレーと全く違う。食材を、多種類のスパイスと胡椒、唐辛子と一緒に煮込む激辛カレーである。また、スリランカ人は日本人より食べるご飯の量がとても多い。

スリランカの食文化には宗教が大きく影響する。国民の約七割を占める仏教徒の人たちは、たいてい何でも食べるが、ヒンズー教徒の人たちは牛肉を、イスラム教徒の人たちは豚肉を食べない。

それぞれの宗教にまつわる大切な行事の日には、学校や会社や休みになるだけでなく、肉を売らない。もちろんホテルなどで肉は自由に食べられるが、販売することは、ほとんどの店で禁止されている。宗教に関連する行事の日には、肉と同様に、酒を売ることも禁止されている。それがスリランカの食文化の大きな特徴である。もちろん、そういう日の前に肉や酒をあらかじめ買って置いて、そういう日でも肉を食べたり、酒を飲んだりする人もいる。

その他に、私がいまだに好まない食習慣がある。それは、家族の皆と一緒に食事を摂らないことである。どういうことかと言うと、男性が最初に食べ、男性が食べ終わってから女性が食べるのである。必ずしもそうでない家庭もあるが、ほとんどがそうである。なぜ男性が最初に食べるかと言うと、それにはいろいろな理由がある。ひとつ挙げるならば、手を使って食事をやるためである。自分が食べている間に他の食べたものが取りづらいため、代わりに母親や娘たちが父親や息子たちに食べ物を用意してあげなければならぬのである。つまり、女性が男性へ

給仕するためである。

日本と違い、スリランカのカレーはスプーンでは食べない。それぞれのカレーを少しずつ手で取り、ご飯とよく混ぜ合わせて食べるのである。もちろん手で食べる時には、それなりのルールもある。主に右手で食べることで、手の指先だけ使って食べるのである。

#### ■紅茶の文化

茶の生産量が、中国、インド、ケニアに次いで世界第四位のスリランカは、セイロンティーと呼ばれる紅茶で有名である。その紅茶の文化には長い歴史がある。

スリランカは、一九四八年まで約一五〇年もの間イギリスの植民地であったが、茶の栽培が始まったのはこの間である。もともと、スリランカの主要農産物は紅茶ではなくコーヒーであった。ところが、一八七〇年代の終わりに起きた害虫の大発生により、コーヒープランテーションが大打撃を受け、イギリスの指導のもと、コーヒーに代わり紅茶栽培が発展していったのである。

紅茶の飲み方はいろいろあり、それぞれの家庭で、飲み方が違っている。

代表的な飲み方は、紅茶に粉ミルクと砂糖を入れる飲み方だ。砂糖は多めにを入れる人が多い。または、砂糖か黒砂糖の小さな固まりを手にとって、それをなめながら飲む方法もある。こういう飲み方は貧しい家庭でよく見られる。貧しい家庭の人々が飲んでいるのは、ダストと呼ばれる、一番細かく粉状になった茶葉で入れた紅茶である。一番安い紅茶なので、味も薄い。その他にも、レモンを入れたり、ジンジャーを入れたりして飲む飲み方もある。しかし、朝は粉ミルクを入れて飲むのが一般的である。

紅茶を飲む回数も多く、毎食後だけでなく、家庭でもオフィスでも午前十時頃と午後三時頃紅茶を飲む。オフィスではティータイムとしても認められている。一日五回ぐらいは紅茶を飲むのが習慣となっている。

その一方で、アーユルヴェーダ（インドの伝統的学問）の教えで、紅茶が伝わる以前よりずっと昔から続く、いろいろな木の花や葉っぱなどを水に入れて沸かした飲み物を飲む習慣がスリランカにはある。それが様々な病気にも効くということ、現在も飲んでいる人たちがいる。紅茶の文化が伝えられて以来、人々が長い間飲み続けてきた伝統的で体に良いこの飲み物ではなく、皆がこぞって紅茶を飲むようになったのは、私はちよつと残念なことだと思う。もしかしたら、一年中ほとんど暑い気候の環境下に適した飲み物で、古くから伝わるこの伝統的な飲み物以上のものは世界中どこを探しても他にはないのかもしれない、とさえ思う。

## ■正月

正月も特徴的である。スリランカのお正月は一月ではなく四月である。伝統的な星占いによつて地球が太陽の周りをぐるぐる回つて三六五日経つた後にまた戻つてくるのが四月であり、それが本当の新しい年の始まりだと信じられている。通常正月は四月十三日と十四日になるが、少しずれる年もある。新しい年が始まると、全てのことを星占いによつて決まった時間に行うのがスリランカのお正月の特徴である。また、それに関するいろいろな行事がたくさんある。例えば、新しい年が始まると皆新しい服を着て寺や友達の家をまわる。また、新年に最初に火を使う際の行事もある。星占いによつて決められた時間に、全国の家で一斉に火を

けてミルクを沸かす。そして、わざとミルクを溢れさせて、新しい年もこのミルクのように外に溢れるくらい幸せになるようにと祈る。それから料理を始める。このような伝統的なお正月の行事はどの家でもずっと守り続けられている。

## ■日本の印象やスリランカとの違い

日本に来て驚いたことは、数え切れないほどたくさんある。その中からいくつか紹介したいと思う。まず、日本人がいつもコーヒーを飲んでいるのに驚いた。一度、日本語学校の先生に「どうしてみんなそんなにコーヒーを飲んでるのですか？お腹でも痛いのですか？」と聞いたら先生は笑つて「そんなことはないよ。スリランカの人が紅茶を飲んでるのが同じだよ。」と言つた。スリランカでコーヒーを飲むのは、お腹を壊したときだけだからである。でも私も日本に長く住むようになって、特に寒いときや、少し酔っているときに自動販売機で飲み物を買う場合は、必ず温かいコーヒーにしている。やっぱりそういう時は紅茶よりコーヒーが合うと感じるようになった。

暑い国から来た私であるが、スリランカでは、アイスティーやアイスコーヒーを飲んだことはなかった。どんなに暑くてもスリランカ人は熱い紅茶を飲む。日本では、夏になると飲み物がほとんど冷やされているのに驚いた。それまで、飲み物を冷やすという習慣がなかった私は、日本で初めて飲んだ麦茶がとても好きになって、一度帰国した際にお土産に麦茶を持ち帰り、冷やして皆に飲ませてあげた。ところが、「何これ？」と言つて誰も飲まなかった。

もう一つ驚いたことは、日本人がすしや生ものを食べることである。初めてその光景を見た

時は、とてもびっくりした。スリランカでは、生ものを食べるのはありえないことだからである。そして、私が初めてわさびを大量に食べてしまった時のことは未だに忘れられない。辛いものはいくらでも平気で食べることが出来た私だが、わさびの力には負けた。鼻から頭の奥まで入ってきたわさびの辛さは、未だに脳裏に焼き付いている。ところが、今ではすっかりわさびが好きになった。たまに私が魚カリーを作るときは、わさびを入れている。

他にも、日本語学校の冬休みに、皆で奥日光に行った時のエピソードを紹介したいと思う。それまで温泉を全く知らなかった私は、皆が裸でいるのを見てびっくりした。なぜなら、スリランカでは、普通服を着たまま体を洗うからである。いったいどうなっているのかと思つたが、私も仕方がないから温泉に入った。ところが、実際に入つてみると、とても気持ちよく、それ以来、変わった外国人だというぐらい、私は温泉が大好きになって、今も頻繁に行つている。

日本で暮らしてみても、最初におかしいな、変だな、信じられないと思つたことに対して、知らず知らずのうちの一つの間にかその習慣が好きになっているのを顧みると、やっぱり私も随分日本の文化に慣れてきたなあと思感する。

ここまで、私の母国スリランカについていろいろと紹介してきた。最後に、私が今最も感じていることを述べて終わりにしたいと思う。

この自慢の母国が、長い間続く内戦のために世界の人々から危険な国だと思われて、訪れる人が少ないという現状が残念でならない。世界中の人々にこの国の美しさを知ってもらい、たくさんの方々が来てくれることを切に願う。